

大 麥

稷 麥

小 麥

郡市別	作付反別		前年ニ比		作付反別		前年ニ比		作付反別		前年ニ比	
	本年收穫高	本年收穫高	シ増減	石	本年收穫高	本年收穫高	シ増減	石	本年收穫高	本年收穫高	シ増減	石
水戸	一四〇・三	二二二	△	五七	一〇	二	△	一	五七	七五	△	二
東茨城	三、四〇・九	二、七二	△	八、一九	三〇・二	二、七九	△	四	六、三〇・五	六、〇〇・五	△	三〇・〇
西茨城	一、三三〇・二	三〇、六三	△	三、七五	三〇・〇	一、四三	△	二四	二、三九・三	二、三〇・三	△	九、一五
那珂	三、〇〇六・三	五、五三	△	一〇、一三	五〇七	八、二七	△	二、六〇	七、四八・六	七、四八・六	△	三、二五
久慈	二、八七・四	四、七三	△	一三、六九	四九・九	五、四九	△	二、一三	三、一〇・四	三、一〇・四	△	一、二九
多賀	八〇九・九	一、四、四四	△	四、一〇元	三〇・七	三、七四	△	一、四一	一、四四・一	一、四四・一	△	一、二九
鹿島	二、四三・九	四、七三	△	八七	四〇〇・〇	六、三〇	△	六	五、五八・八	五、五八・八	△	二、七〇
行方	八七九・四	一、三、二四	△	七〇	二七八・三	三、四八	△	四一	一、九〇・八	一、九〇・八	△	二、三三
稲敷	一、五四・〇	六、七七	△	四、五〇	七〇・三	九〇	△	七	三、四三・〇	三、四三・〇	△	一、九
新治	二、〇四・〇	三、九六	△	三、八九	八四・一	一、一四	△	一七	四、六九・六	四、六九・六	△	七、〇九
筑波	一、〇六・五	四、四四	△	六、四	二・七	三	△	三	三、二八・六	三、二八・六	△	六、九一
眞壁	四、一八・一	九、七二	△	三、三三	三〇・一	五三	△	一四	四、五九・六	四、五九・六	△	三、七八
結城	四、〇九・七	六、二四	△	六、三三	九・一	一八	△	六	三、三三・三	三、三三・三	△	四、一〇
猿島	五、六四・三	一、一、八八	△	五、〇六	五・八	一四	△	一四	四、八三・四	四、八三・四	△	七、六三
北相馬	九七・一	三、一〇八	△	二、九三	〇・二	三	△	六	一、六四・九	一、六四・九	△	二、九六
合計	三、八三・九	七、六六八	△	八、〇〇	二、六四四	三、三一一	△	七、四三	五、八七二	五、八七二	△	七、七九

「春蠶收繭高は………」

縣下の

百八十七萬八千餘貫

前年の收繭高より七分一厘の減收

縣下の昭和十三年に於ける春蠶收繭高は總數百八十七萬八千五百四十七貫(白繭種五十四萬三千二百二十貫、黃繭種百三十三萬五千四百二十七貫)で前年收繭高二百二萬三千五百五十六貫に比し十四萬四千六百九貫仍ち零割七分一厘の減收を示したと九月五日午後四時縣統計課が調査の結果を發表した。

而して前記の如く前年に比し減收を示したのは繭價安を見越したると勞力不足の爲掃立を手控へ其の數量に於て三十四萬九千八百四十四瓦(壹割三分一厘)減少したのに因るものである。之を郡市別に示せば次の如くである。

郡市別	養蠶戸數	蠶種掃立數	收 繭 高		前年收繭高	前年ニ比シ増減(△印減)
			白 繭	黃 繭		
水戸	五戸	一〇〇、二	七貫	一、二七貫	一、四貫	△
東茨城	四、七九	一〇三、〇三	五、八三	九、〇〇	一、二八貫	△
西茨城	二、七三	一、六、三五	四、四七	五、二七	七、七〇	△
那珂	二、四四	八、七、七	三、〇、四	四、三、七	六、六八	△
久慈	二、六七	七、九、七	八、四九	五、八、四	六、八六	△
多賀	二、六	四、四、七	一、八、三	一、三、一	三、三三	△
合計					三、五、四	△

鹿島	二、六四〇	一、七、五九	三、五〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	六、九四〇	三六	二、四四〇
行方	二、四七〇	一、〇三、四三	三、〇〇〇	一、〇〇〇	二、四、五〇	三、七〇〇	△	二、七〇〇
稲敷	六、二六八	三、四、一四	一、〇〇、〇〇	三、四、五〇	三、三、九六	三、三、九六	△	一、〇、三〇〇
新治	九、三三三	四、四、〇三	四、九、六六	三、三、五三	三、三、五三	三、三、五三	△	三、三、五三
筑波	七、〇〇〇	三、一、四八	六、九、六六	一、九、三三	二、五、七七	三、三、九六	△	三、三、九六
眞壁	四、七〇〇	三、八、二六	六、九、六六	二、一、二七	一、九、〇六	三、三、九六	△	三、三、九六
結城	六、〇三〇	三、八、八四	三、三、〇〇	三、四、〇三	三、四、〇三	三、四、〇三	△	三、四、〇三
猿島	二、二九四	一、六、五五	三、三、〇〇	四、七、五三	〇、九、九	七、九六	△	三、三、九六
北相馬	二、三三八	一、七、八六	三、三、〇〇	一、三、五、四七	一、三、五、四七	一、三、五、四七	△	一、三、五、四七
合計	五、八、八六	二、七、一、八三	五、〇〇、〇〇	一、三、五、四七	一、三、五、四七	一、三、五、四七	△	一、三、五、四七

十四萬餘貫增收

梨の豫想收穫高

本年八月一日現在に於ける縣下の梨豫想收穫高は二百十四萬六千六百六十八貫で之を前年收穫高に比すれば十四萬五千三百六十八貫(六分八厘弱)の增收を示した。之は開花期稍暖氣に過ぎた様であるが、結實稍良好で前年の如く冷害及早害を受けないのに依るものであらう。郡市別豫想收穫高と前年收穫高に對する比較増減は左の如くである。(△印は減收)

水戸	豫想收穫高	前年收穫高	前年ニ比シ増減
鹿島	一、三、八三〇	八、〇四〇	五、七〇〇
行方	二、二、九四〇	一、五、三三〇	七、六一〇
稲敷	一、四、二〇〇	一、一、五三〇	二、六七〇
新治	三、八、七五〇	三、〇、〇六〇	八、六九〇
筑波	一、三、三六〇	一、三、三六〇	〇
眞壁	一、四、〇〇〇	一、四、〇〇〇	〇
結城	三、三、〇〇〇	三、三、〇〇〇	〇
猿島	二、二、九四〇	二、二、九四〇	〇
北相馬	二、三、三八〇	二、三、三八〇	〇
合計	二、二、四〇〇	一、九、五三〇	二、八七〇

茶種は增收

縣下本年の茶種作付反別は千六百二十町一段で前年作付反別に比すれば九十六町三反(〇割〇分六厘)を増加し、收穫高は一萬七千九百九十三石で前年に比し百四十四石(〇割〇分八厘)の增收を見た、之を郡市別に示せば次の如くである。

北相馬	作付反別	收穫高	價額
鹿島	一、三反	一三石	二三四圓
行方	二、四二六	五五、二三二	一、一、〇〇〇
稲敷	三、三三〇	七、三八三	一、一、〇〇〇
新治	九、一、九	六八	一、〇、三、一
筑波	三、六、九	五、一〇	一、一、三、九
眞壁	五、五、六	五〇七	一、一、一、七
結城	八、八、六	七三二	一、六、九、二
猿島	七、〇、〇	六二〇	一、二、八、四〇
北相馬	一、三、〇	一四一	三、一、〇、四
合計	二、六、三〇、一	一七、一九三	三、六、四、四八四

僅かの手當に 慰問品を贈る 調査員美學

支那事變もいよいよ長期戦となり縣下の統計調査員も多数第一線に活躍してゐるが、眞壁郡古里村でも四名の調査員が應召したので同志の出征を送つた殘留調査員は後任者の指導援助をして銃後統計の調査に遺漏なきを期するのみならず、僅かの調査員手當を割いて同村軍人後援會の資金に義捐し、又は慰問品の發送などにも盡力して來たが、此の程も同村出征調査員に慰問品を送つて調査員の奮戦を激励したので銃後にある統計調査員の美學として村民をいたく感激させてゐる。